

一緒に考えよう、 人生100年時代と老後の資産形成

杉村 太蔵 氏(元衆議院議員)

人生100年といわれるが、私が70歳を過ぎる30年後、年金支給年齢は80歳になっているかもしれない。それほど日本の財政状況と高齢化率は深刻です。私たちの世代は、価値観や考え方を考える必要があるでしょう。

早い時期から、老後の生活設計を考えておくべき、というのが私の考えです。老後の不安は、分からないことが原因。老後の資産形成は専門家に相談することから始まる、と理解してください。

それを踏まえて、タイゾー流株式投資の話。有権者として、投資家目線で政治家の政策を見てほしい。見極めるポイントは三つ。金利、税制、財政です。マクロ経済政策とは、これらを組み合わせて経済問題を治療すること。これらについて、政治家がどう考えているか、ぜひ注目してください。

金利を理解する――。実質金利と名目金利を自分の言葉で説明できるようになってください。これは、私が考える投資家の原点、資産形成の第1歩です。

名目金利は銀行の店頭などに表示されている「見かけ」の金利。対して実質金利とは、「見かけ」の金利から「期待インフレ率」を差し引いた金利で物価上昇率を勘案した金利を指します。

今は、実質金利が極めて低い。お金を銀行に預けて利息が増える速度よりも、モノの値段が上がるほうが速い状態で、お金の価値が実質的に目減りしています。

こういう時期は、お金をモノと交換するほうが有利です。投資や消費が活発になる。最近の株価や不動産価格の上昇はこのためでしょう。値崩れするリスクは低い、と私は見えています。

株式投資は、企業の応援です。では、銘柄をどう選ぶか。タイゾー流は、投資家目線で暮らしを見つめ10年先を想像します。

高齢社会を考えて、紙おむつに注目しました。数種類をはいて、実際に用を足してもみました。すると、ありました。これだというもの。ホームページで、経営



方針や経営計画も読みます。たとえ難解でも、いいものはいいと分かります。銘柄選びは、どんな会社なのかを自分の言葉で説明できること。分からないものには手を出さないが鉄則です。

投資を始めると、勉強するようになります。得た知識は、将来の血となり肉となり、ひいては政治にも影響を与える。いい投資家が増えることは、いい有権者が増えることにつながります。ぜひ、関心を持ってください。

杉村 太蔵 ずぎむら・たいぞう

1979年生まれ、北海道旭川市出身。外資系証券会社勤務を経て、2005年9月の総選挙で最年少当選。若年者雇用の環境改善などに尽力した。現在は、テレビや雑誌などで活躍するほか、政治・経済をテーマに講演活動を行う。著書に『バカでも資産1億円「儲け」をつかむ技術』（小学館）ほか。